

長興寺

について (一)

No.363

平成30年1月

銅のこと）を建立している。蓮華座に江戸馬喰町の講中伊勢屋、上総屋など多数の名前が見られる。

地蔵菩薩像は立像が多いが、これは座像である。現在も本堂正面左手にあって、参拝者を見守っている。

市役所から大多喜方面に車で五分程走ると綱島十字路に差し掛かる。そこを左折すると右手一面田んぼが広がっている。その田んぼを縦断すると、右手に閑寂な境内が視野に入り、その先に本堂が見える。

不動山明王院長興寺と言う天台宗のお寺である（茂原市早野）。『寺院明細帳』によると、開基は、建永元年（1206年・鎌倉時代）幸運法印とある。行徳寺（茂原市中善寺）の末寺で、本尊は如意輪観音と書されている。

また、『五郷村郷土誌』によると、境内には三間の不動堂があつて、不動尊は伝教大師の作と言う。現在この不動堂は存在しない。長興寺中興の祖十三世実誉頓栄が六十六部供養仏として元文2年（1737）に唐金地蔵尊（唐金とは銅と錫の合金で青

像、経巻などがごとごとく破壊された、いわゆる仏教排斥運動の影響だろう」と黒川住職は話された。

長興寺の山号と院号から判断すると、不動明王の不動と明王から採ったものと思われ、元来は不動明王を本尊としていたものと考えられる。平成27年、住職が如意輪観音を横須賀の仏師に修復依頼をしたところ、胎内から古文書が発見された。それによると、制作年は元禄9年（1696）9月吉日と判明したが、残念なことに仏師名は記載されていなかった。

しかし、「不動山長興寺」の欄では「本尊不動明王之由緒」という記述があり、ここでは本尊が不動明王となっている。現在長興寺の本尊は如意輪観音ではあるが、何らかの事由で客殿の如意輪観音を本堂の本尊としたものと考えられる。

『寺院明細帳』にはただ単に本尊如意輪観世音としか記されていない。長興寺についての資料はこの『五郷村郷土誌』と『寺院明細帳』くらいで他に資料が見出せない。このことは、「老朽化した客殿の取り壊した時の事情か、明治時代日本各地の仏堂、仏



▲長興寺外観

茂原市文化財審議会委員
片岡 栄

お問い合わせは、
生涯学習課（9階）

☎2015559、FAX201607へ。

文芸コーナー

小さなストレス

山本 明美

特別なことは何も無い
ごく平凡な日々
取り立てる程の不満もない
気儘きままな生活
なのに
時々忍び寄ってくる
得体の知れないモヤモヤ
霧きりみたいなの

指先で払っても
両手を振り回しても
消えなくなるモヤモヤ

逃げる
にげる
ニ・ゲ・ロ
体の中で騒ぐ声
近付いて来る声

海へ行く
波音をかぞえる
風の歌に耳を傾ける
両手を上げて降る
雨粒をつかむ

いつの間にか
尖った心が風いで行く
霧きりみたいなモヤモヤが
消えたら

わたしは戻る
自分が居るべき
掛替かかえのない日常へ

◎選評 斎藤正敏

取り立てて不満がある訳でもない平凡な日々を暮らしているのだが、時々忍び寄ってくる得体の知れないモヤモヤ。人の心理の難しいところです。海へ行く。これも一つの方策では？自分が居るべき場所を求めて人は生きていくのです。

- 偶数月は「俳句・短歌・川柳」を、奇数月は「詩」を掲載しています。
- 投稿は楷書でお願いします。作品・氏名にふりがなをふってください。

※俳句、短歌、川柳の原稿送付先
〒297-8511 茂原市道表1番地 茂原市役所秘書広報課宛「文芸コーナー」と朱書きしてください。

